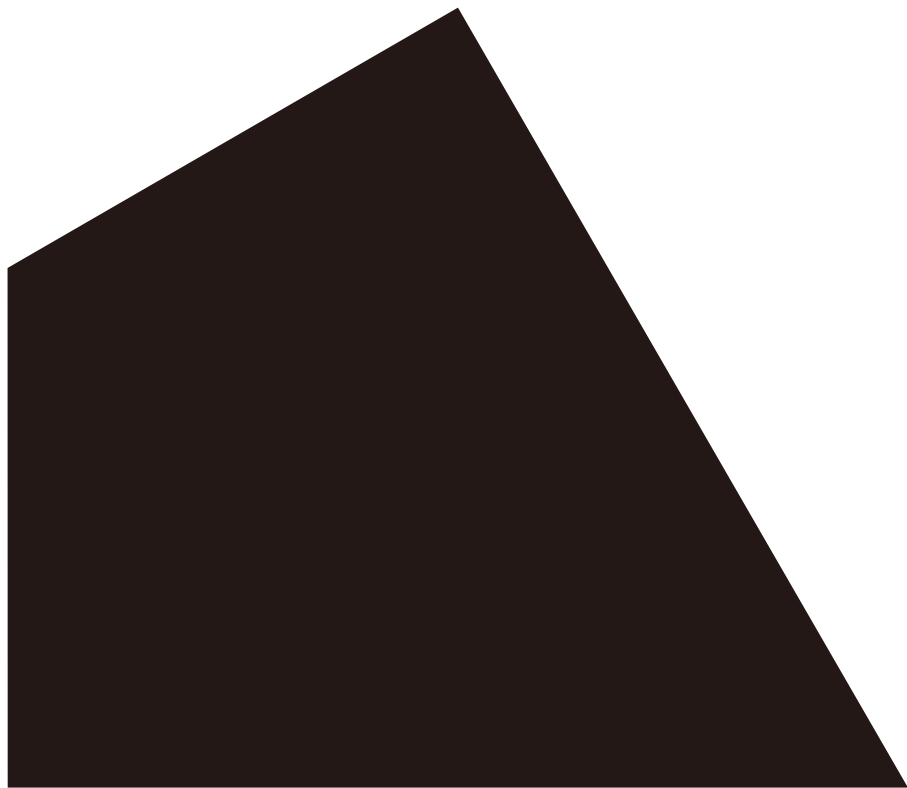


文
化

Culture



進化と継承

京都が誇る伝統工芸。それは千年を超えて生活の中で使用され、磨かれてきた形です。

伝統や文化がどのように継承され、どのような進化を遂げようとしているのか。

作品の数々をその作り手たちの視点とともにご堪能ください。

Evolution and Inheritance

Kyoto takes great pride in its traditional crafts, encompassing forms that have been used and refined in daily life for over a thousand years. How are these traditions and aspects of cultural being passed down through the generations, and how are they evolving? Immerse yourself in a collection of numerous works, and gain a glimpse into the perspectives of their creators.

1 金網つじ

kanaamituji

2 南條工房

NANJO KOBO

3 朝日焼窯元

Asahiyaki Pottery Kiln

4 株式会社 中川木工芸

Nakagawa Mokkougei Co., Ltd.

工芸に触れて感じる五感

工芸が作り出すモノは、人間の五感すべてで味わうもの。「中川木工芸」「金網つじ」「南條工房」「朝日焼」の4つの異なる工芸を、体全体で感じてください。

「金網つじ」は光から影を、「南條工房」は音色生み出します。「中川木工芸」と「朝日焼」は、隠れたテクノロジーとの融合でお湯を沸かします。

それぞれの素材の違いが生み出す手触りの違いを感じ、またここには存在しない虫の音、お茶の香りに思いを馳せる体験をお楽しみください。



中川木工芸 金網つじ 南條工房 朝日焼

1-1

暮らしによりそう、京金網

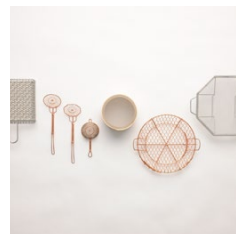
起源は平安時代までさかのぼる京金網

平安時代にはすでに金網で作られた道具が存在しました。金網は神社仏閣の建物だけでなく、お香を焚くための道具や、緻密に編まれたかごに鳴く虫を集めて虫の音を楽しむ「虫かご」としても使われてきました。その風流な様子は、枕草子や源氏物語にも記されています。



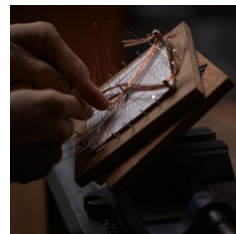
毎日使う道具だからこそ

金網つじの道具は、ていねいにひとつひとつ手づくりで製作しています。日々の暮らしの中で使う道具だからこそ、長く使い続けられるよう丈夫で愛着を持ってもらえる、そんなものづくりをしています。



金網つじ

京都市北区紫竹下緑町61-4



1-2

品格を持った、金網つじの道具たち

脇役の品格

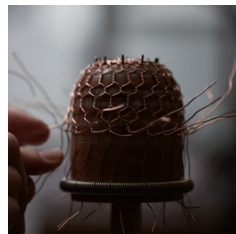
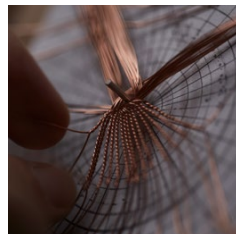
金網つじの道具はすべて脇役だと考えています。主役である暮らしを引き立て、心地よく使っていただく為には脇役にも品格がなければいけません。「脇役の品格」の考えのもと、心地よさを感じてもらえるものづくりを目指して日々精進しています。

伝統と革新のものづくり

京金網は編む技術に加えて、細部にまで多岐にわたる職人の技術でものづくりが行われています。その伝統と革新が交わる事で、時代を超えた新たなものづくりに挑戦しています。



金網つじ
京都市北区紫竹下緑町61-4



2

おりんの響きが伝える 200年続く祈りのためのものづくり

寺社を中心に伝承される工芸技術

神社や寺院は、建築や仏像・経典の装飾において、高度な工芸技術を必要としました。そのため、宮大工・仏師・蒔絵師・金工師など多様な職人技術が発展し、伝承されています。

祈りのための楽器

おりんは、仏前で叩き音を出す椀状の仏具。音を出す仏具は「梵音具（ぼんおんぐ）」と呼ばれ、その澄んだ音色は場を浄（きよ）め邪念を払うと伝えられています。

良い音をつくるために

創業200年を超える南條工房は、伝統の技術と知恵をもとにものづくりを続ける工房です。おりんの音をより身近に、誰かを思い自分自身に向き合うきっかけとして、LinNeというブランドを立上げ国内外に発信しています。



南條工房
宇治市槇島町千足42-2



3

茶の文化と400年 朝日焼の伝統と革新

茶の文化と共に歩む窯元「朝日焼」

「朝日焼」は、日本の茶の文化の中心である京都宇治にて、400年以上16代にわたって継承されてきました。

綺麗寂び

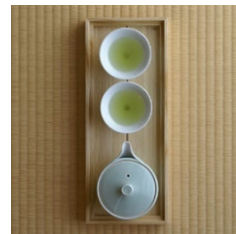
“侘び寂び”という日本の茶の湯を代表する美意識に、“綺麗”という華やぎと上品さを調和させた美しさを体現。特に美しい水色の月白釉の作品は、現代的な“綺麗寂び”です。

挑戦と継承

どの時代においても、つねに現代的であることを大事にし、新しいテクノロジーとの協業を模索。本展示では湯を沸かすIHの技術を用いた作品や、1970年大阪万博で使用した十四世の茶盃と並べ、十六世によるAIデザインを使用した茶盃を展示します。



朝日焼窯元
宇治市宇治又振67番地



4

変容する木桶たち

100年後も木桶のある未来を

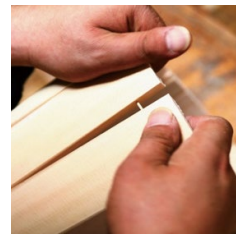
木桶は昔の日本人の生活の中で使われていましたが、今では工業製品に取って代わられてしまいました。日本に伝来して700年以上の歴史を守るために、100年後も木桶のある未来を作るべく新しい木桶の製作に挑戦しています。

様々に変容した木桶を展示

デザインやアート、テクノロジーなど、新しい分野とコラボレーションする事で形を変え、素材を変え、機能を変えて生まれ変わりました。木の葉型や波うつ型など様々なデザインの木桶を制作。2000年以上土に埋もれて灰褐色になった神代杉を使用した木桶、IHでお湯が沸かせる木桶などを展示しています。



株式会社 中川木工芸
大津市八屋戸419



京瓦「キモノタイル」に覆われた 空間デザインと映像・音楽によるノンバーバル表現

オリジナルの京瓦「キモノタイル」によって
質感を統一したミニマルかつ静謐な空間を通じて、
来場者がじっくりと京都の未来と過去に
向き合えるような体験を創出します。
さらに、そこに加わるノンバーバルな映像と音響は、
空間と一体となりながらその多面的な魅力を物語ります。

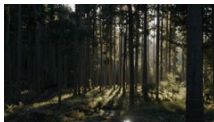


映像紹介



八幡宮大杉

撮影地：中川八幡宮（京都市北区）



北山杉の生える山

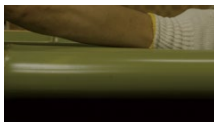
撮影地：北山林業地（京都市北区）



建仁寺垣を作る手

撮影地：三木竹材店（京都市南区）

協力者：三木竹材店



白竹の磨きをする手

撮影地：三木竹材店（京都市南区）

協力者：三木竹材店



できたばかりの建仁寺垣

撮影地：三木竹材店（京都市南区）

協力者：三木竹材店



紙漉きをする手

撮影地：黒谷和紙会館（京都府綾部市）

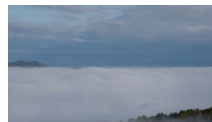
協力者：黒谷和紙協同組合



漉きたての和紙の耳

撮影地：黒谷和紙会館（京都府綾部市）

協力者：黒谷和紙協同組合



雲海

撮影地：かめおか霧のテラス（京都府亀岡市）

映像紹介



丹後ちりめん

撮影地：スタジオ(京都府京丹後市)
(京都府与謝郡与謝野町)
協力者：丹後織物工業組合



おおすみはやとまい

大住隼人舞の盾

撮影地：スタジオ(京都府京田辺市)
協力者：大住隼人舞保存会



ジャガードの紋紙(もんがみ)

撮影地：株式会社川島織物セルコン
(京都市左京区)
協力者：株式会社川島織物セルコン

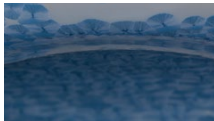


おしお

まつ

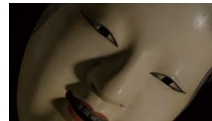
小塩の上げ松

撮影地：京都市右京区京北小塩町(京都市右京区)
協力者：小塩上げ松保存会



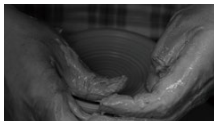
京焼

撮影地：スタジオ(京都市東山区)



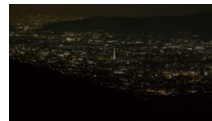
能面(小面)

撮影地：スタジオ
協力者：能面師 宇高景子



回るろくろの上で形になる土塊

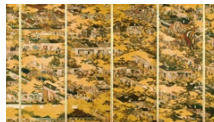
撮影地：瑞光窯(京都市東山区)
協力者：瑞光窯 東山工房店



比叡山山麓から見た京都と大阪の夜景

撮影地：登仙台展望台(京都市左京区)

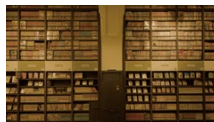
映像紹介



らくちゅうらくがいづびょうふ ふなきほん
洛中洛外図屏風(丹木本)
いわさまたべえ
岩佐又兵衛
協力者:東京国立博物館蔵



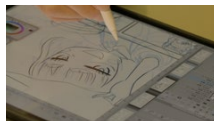
そでし たなだ
袖志の棚田
撮影地:京丹後市丹後町(京都府京丹後市)



**京都国際マンガミュージアムの書架
「マンガの壁」**
撮影地:京都国際マンガミュージアム
(京都市中京区)
協力者:京都国際マンガミュージアム



香炉から香が立ちのぼる様子
撮影地:スタジオ



マンガ作画の様子
撮影地:京都国際マンガミュージアム
(京都市中京区)
協力者:京都国際マンガミュージアム



鏡板
撮影地:金剛能楽堂(京都市上京区)
協力者:金剛能楽堂

じゅんおんはいけい

巡音拝景

京都府の今の音と、文献などに記述された音をあつめ、
そこに新たな音を配置(Composition=作曲)して制作する。

1996年に環境省(当時環境庁)は「全国各地で人々が地域のシンボルとして大切にし、将来に残していきたいと願っている音の聞こえる環境(音風景)を広く公募し、音環境を保全する上で特に意義があると認められるもの」として「残したい“日本の音風景100選”」を選定した。それから約30年が経ち、改めて京都府の音を取り上げる。温暖化が加速し、四季が失われつつある現代において山や森林など木々は大変重要で貴重なものである。京都府には豊かな自然があり、美しい音が存在している。自然がこれからも失われないことを祈りながらフィールドレコーディングをした。前述の「音風景100選」で取り上げられたものに加え、新録している。

さらに文学の中にも多くの音の記述がある。録音技術が生まれる以前には古来から人々はことばを使って音を集めた。こういった音を集めることもフィールドレコーディングである。

フィールドレコーディングリスト

Part-1 るり溪(南丹市) 船着場(伊根町) 舞鶴港(舞鶴市) 宮津湾(宮津市) 石清水八幡宮(八幡市)

Part-2 京都御所玉砂利(京都市) 清水寺(京都市) 鹿(京都市) 大江山(福知山市) ちりめん街道 天満神社(与謝野町)

Part-3 琴引浜(京丹後市) 琴滝(京丹波町) 宇治川(宇治市) 真福寺水琴窟(亀岡市) 妙心寺(退蔵院) 水琴窟(京都市)

Part-4 綾部大橋由良川(綾部市) 美濃山竹林(八幡市) 興聖寺(宇治市) 古世親水公園(亀岡市) 詩仙堂鹿おどし(京都市)

御香宮神社(京都市) 雷雨(京都市)

記述されたものからのフィールドレコーディングリスト

大原『平家物語』 鐘の音、鹿の音、虫の音

野宮『源氏物語』 虫の音、松風の音、雅楽の楽器の音

宇治『万葉集』 宇治川にして作る歌二首 1699-1700 雁の鳴き声、川の音

法成寺『栄花物語』 卷第十七「おむがく」 雅楽の演奏音

丹後『丹後国風土記』 逸文 嘆く声、歌

福知山『大江山絵詞』 雷、田楽

石清水八幡宮 世阿弥 能『弓八幡』、『放生川』 不思議な音楽、夜神楽の音

法勝寺『弁内侍日記』 後戸猿楽、鈴の音

谷崎潤一郎 潺湲亭「夢の浮橋」 添水(しおどし)の音

琴弾浜 木内石亭『雲根志』 海辺の砂浜の音

『蜻蛉日記』 車の音

『洛陽田楽記』 永長の大田楽

作・編曲: 原 摩利彦

ギター: Polar M

フィールドレコーディング協力: 村中真澄

リサーチ協力: 原 瑠璃彦

音響デザイン: 中原楽(KARABINER inc.)

株式会社 大城音響事務所

制作: MH Studio Inc. / TSUYURI

空間デザイン協力	Space design cooperation
Sandwich	Sandwich
京瓦タイル「キモノタイル」製作協力	Kyoto tile "Kimono tile" production cooperation
株式会社京瓦 浅田製瓦工場	ASADA KAWARA FACTORY
テーマ映像制作	Theme video production
株式会社 青空	AOZORA,LTD
テーマ音楽制作	Theme music production
原 摩利彦	Marihiko Hara

大阪・関西万博きょうと推進委員会